

国際水準の理学療法を学ぶ研修会

呼吸・運動器・人間工学の最新知見を学ぶワークショップ



クイーンズランド大学（オーストラリア） THE UNIVERSITY OF QUEENSLAND
Alice Jones Ph.D., FACP, MPhil, MSc., Cert PT

10:00-12:00 呼吸評価における臨床推論

13:00-14:00 現代のCOPD管理

14:00-15:00 周術期理学療法とプレハビリテーション

【講師紹介】 Alice 教授は香港で理学療法士資格を取得後、MPhil、教育学修士、博士号を取得。1995年より心肺理学療法の専門家として活動。香港・英国・オーストラリアで臨床経験を積み、その後教育・研究分野に従事。香港理工大学にて教育・研究の要職を歴任し、150本以上の査読付き論文を発表。中国における理学療法教育の発展にも貢献し、国際的な教育・認証活動にも関与。

東華学院（香港） TUNG WAH COLLEGE

Professor Grace Szeto, Ph.D., MAppSc,
PGD (Sports Physiotherapy), BSc (PT)

15:30-17:30 オフィスワーカーに対する
人間工学的介入は有効か？



【講師紹介】 Grace 教授は香港・東華学院の理学療法学プログラム責任者。30年以上にわたり人間工学およびバイオメカニクス研究に従事。不良姿勢や筋活動、スマートフォン使用による影響、バイオフィードバックと運動療法の比較などを研究。香港労働安全衛生分野でも重要な役割を担っている。

開催日時 2026年5月30日(土)

開催場所 医療創生大学 6号館6N-107
対象 医療創生大学 臨床実習指導者
理学療法士・医療従事者・学生

参加費用：無料

要参加登録

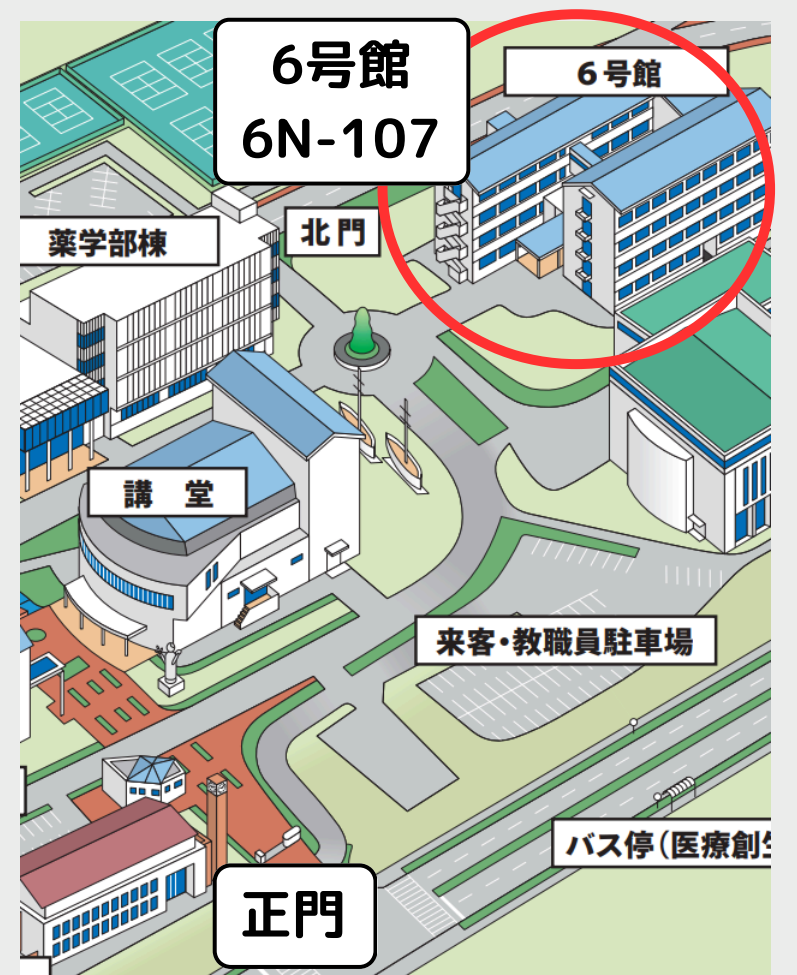
■ワークショップのご参加は、いずれか一方または双方へのご参加が可能です。

■ワークショップは同時通訳で実施されます。

■登録理学療法士ポイント付与： 区分8:呼吸理学療法(4pt)

※福島県内理学療法士のみ履修可能 区分15:バイオメカニクス・人間工学(2pt)

参加申し込み締切: 5/27(水)



参加申し込み用
QRコード



医療創生大学

〒970-8551 福島県いわき市中央台飯野5-5-1

(問い合わせ先) 医療創生大学 理学療法学科 初山 日出樹 宛

e-mail: momiyama.hideki@isu.ac.jp

ワークショップの内容について



アリス先生 (Alice Jones Ph.D.)

Topic 1 (10:00~12:00)：呼吸評価に基づく臨床推論

呼吸器患者の評価が、単なるチェックリストではない、臨床推論に基づく動的なプロセスであることを解説します。呼吸評価の基本項目を整理した上で、評価から得られた情報がどのように臨床判断の枠組みを形成するかを概説します。

さらに症例を通して、ACBT（能動的呼吸法）では一見同じ適応に見える3症例であっても、評価結果に応じて修正が必要であることを紹介します。そして、ACBTに関する一般的な誤解についても触れます。

Topic 2 (13:00~14:00)：現代のCOPD

— GOLD2026・COPD-X・オーストラリアの臨床基準について—

COPD管理に関する3つの重要な指針（GOLD2026、COPD-X、オーストラリアCOPD臨床ケア基準）をもとに、最新の知見をわかりやすく紹介します。

また、国際基準、臨床現場での実践指針、医療システムとして求められる役割が、どのように理学療法を形作っているのかを解説します。特に、呼吸リハビリテーション、身体活動、多疾患併存、そして増悪後のケアに焦点を当てて説明します。

Topic 3 (14:00~15:00)：周術期理学療法とプレハビリテーション

プレハビリテーション（術前介入）、早期離床、呼吸ケア、退院後のリハビリテーションが、手術に対する耐性の向上、合併症の軽減、回復促進にどのように寄与するかを解説します。また、術前理学療法が手術成績の向上に不可欠である事を示す最新のエビデンスを紹介します。



グレース先生 (Grace Szeto, Ph.D.)

Topic 1 (15:30~17:30)：オフィスワーカーに対する人間工学的介入は有効か？

現代のオフィスワーカーは、頸部痛や腰痛が多いことが知られています。また、コンピュータ作業により、手根管症候群や上腕骨外側上顆炎などもよくみられます。さらに、スマートフォンやタブレットなどのデジタル機器の使用増加により、長時間の静的姿勢の問題は一層深刻化しています。このような問題に対して、座位・立位を切り替えられるデスク、湾曲型キーボード、縦型マウスなどの人間工学機器が導入されており、姿勢の改善が期待されています。

ワークショップでは、オフィスでのコンピュータ作業に伴う長時間の静的姿勢と、それに関連する筋骨格系障害について概説します。また、スタンディングデスクや各種キーボード、マウスの使用に関する研究を紹介します。さらに、作業環境や姿勢の問題を評価するための人間工学に基づいた評価チェックリストについても取り上げます。